

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200366		
法人名	株式会社 日本ケアリンク		
事業所名	せらび小金原公園		
所在地	千葉県松戸市小金原4-38-6		
自己評価作成日	令和1年9月22日	評価結果市町村受理日	令和2年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和1年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気や大事にその人らしさを重視し支援している。人員不足な面もあるが、出来るだけ職員に研修等の参加をしている。地域密着型事業所として、利用者は町内会の催しの参加、職員は同業他社の運営推進会議に参加している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは「『できないこと』よりも『できること』を探し支援する」を理念として、散歩や買い物など利用者個別の希望を叶えられるように取り組んでいる。「身体拘束廃止に向けた指針」を職員間で共有し、身体拘束をしないケアを実践している。重度化及び看取り介護については重要事項説明書で説明し、職員研修を行って看取りに備えており、実績もある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できない事」よりも「できる事」を探し、支援を行う理念を念頭に実践している。	理念は事業所玄関に掲示するとともに、毎月フロア会議やミーティングで職員間で共有し、実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の参加、町内会の催しの参加、運営推進会議の参加等で地域の方との関わりを持っている。	町内会に加入しており、利用者と一緒に夏祭りや花を植える活動など町内の行事に参加している。また、地域から傾聴ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用様は町内会の催しに参加したり、景品を提供したりしている。職員は他の事業所の運営推進会議に参加しご利用者様やご家族様に情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見の中で地域との交流が他事業所に比べて少ない。	年間6回の運営推進会議は、利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、地域の施設職員などの参加で開催し、ホームの現状報告とともに他施設からの情報や地域の情報を得て、ケアの質の向上に活かしている。	地域との交流を進めるためにも、地域住民などの参加が得られるように検討することもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。困難事例については地域包括に報告相談している。	地域包括支援センターには常に連絡を取り、ケアの相談、サービスの取り組みについて伝え、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症があることから危険認識低いため、転倒転落、独力行動を予防するためセンサーを使用したり車椅子が動いたら鈴が鳴るようにと予防している。	「身体拘束廃止に向けた指針」に基づいて研修を年2回実施して職員に周知するとともに、利用者家族に、なぜ身体拘束をしないケアを行っているのかを説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画の中で虐待防止の研修を行ったり、ユニット会議でも行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に基づいて研修を行う他、両ユニット共に成年後見制度を利用されている方がいるので、一定の理解を得ることができている。また、後見人さんには運営推進会議にも参加して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者または介護支援専門員が説明等を行っている。専門用語ではなくわかりやすい言葉で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、CSアンケート等で意見、要望等を聞き運営に反映している。	運営推進会議に参加できない家族には、毎月議事録を送付し、意見を聞くようにしている。来訪時には声をかけて、意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションの中で、上司関係なく話しやすい環境づくりを心掛けている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に、話しやすい環境づくりに努めて意見を聞きとるようにしている。年2回の職員面接でも意見を聞いており、できる限り運営に活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を年2回実施。目標についての現状、達成度等話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の事業所内の研修、資格取得等推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所内の運営推進会議に参加したり招いたりしている。今後、他事業所のGHの見学ができればと検討中。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するにあたり、本人、ご家族の要望や今までの経緯等聞き取り、本人が安心して過ごせる様安全確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に十分に意向確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活していく中で、本人やご家族からその都度要望を聞き取り他のサービスも含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で暮らしているように、家事等個々で出来ることは共同で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に写真付きで日常の様子をお便りでお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方との面会は積極的に受け入れている。また、地域主催の行事(夏祭り、梅見会等)にも参加されている。	地域行事に参加したり、近隣の知人が訪ねてくるなど、家族とも連携しながらこれまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でどうしても馴染めないという方はスタッフが間に入り支援している。また、自ユニットだけではなく他ユニットや小規模多機能のご利用者やレクを通して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも相談に応じる体制は整っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を重要視し、他スタッフからもユニット会議や業務上でその都度意見をもらいケアプランや個別のケアに活かしている。	日常の会話や、散歩や買い物に行った際の利用者の言葉などから思いを把握するようにしている。また家族から聞くこともある。意思表示が難しい利用者は、表情などから読み取るよう努めている。	把握できた利用者の思いなどは、記録に残すなどして職員間で共有する仕組み作りが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの情報収集し記録に残したり、都度スタッフ間で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りやユニット会議、その都度情報共有を図り、個々の利用者の状況を確認し合い自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、介護スタッフ、提携医療機関、薬剤師等と情報共有し意見を出し合い、本人にとって何が受け入れがいいのか、またどの支援が自立支援に繋がるのか、無理のない介護計画とならないよう心掛けている。	利用者や家族の希望をもとに、フロア会議で職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。必要に応じて、協力医の意見も入れている。計画作成にあたっては、ホーム理念の「できることを探し支援する」を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化等はケース記録、連絡ノート、日誌、口頭等で把握し情報を共有している。得た情報はケアプランに反映、見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族対応が難しい場合は事業所で買物、受診等代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を拾い切れていない協同で行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本ご家族にお願いしてるが、対応できない場合は介護スタッフで対応している。受診必要時はその都度ご家族に説明を行っている。	提携医療機関以外の受診は、家族の対応を基本としている。内科が月2回、訪問歯科が週1回来ているが、状況によって随時の往診もあり、医療面で不安なく過ごせるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で特変等があれば情報提供している。緊急を要するなら電話連絡、要しなければ往診時や健康管理時に書面にて事前にお伝えしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には提携医療機関との連絡はもちろん、定期的にお見舞いに行っている。提携医療機関とも密に情報交換し関係づくりをしている状況。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の在り方を確認しているが、想像つかないご家族もいるため、重度化した場合に再度提携医療機関交え話し合いを行っている。	入居契約時に「利用者が重度化した場合に係る指針」を用いて説明している。また看取りになった場合は「看取りに関する指針」で丁寧に説明し、家族や主治医、管理者等で話し合いながら方針を決めている。職員も看取りの研修を受けており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での研修と、年2回消化、避難、通報訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をご利用様を交えて実践している。	年2回の避難訓練をおこない、今年度は夜間想定訓練に夜勤専門職員も参加の予定である。日常的に、防災点検実施表を用いて障害物や備蓄品等の確認をおこなっている。非常時用に、水や米、おむつなどを1週間分ほど備えている。	消防署と連携し、アドバイスをもらいながら訓練を積み重ね、災害に備えることも必要と思われる。また、地域との協力体制構築も期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や状態に合わせた言葉を選び対応している。また、個人の尊厳やプライバシー、権利擁護などを念頭に置き介護を実施し記録にも配慮している。	尊厳を大切にしており、敬語を基本としている。利用者の状況や家族の希望等で名前の呼び方は一人ひとりに合わせている。職員は、権利擁護やプライバシー保護等の研修を受けて理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい環境づくりを心掛けている。話づらい事があればスタッフを変えたり、ご家族から意見聴取している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、職員都合ではなくご利用者様の都合を優先し、できる限り希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせてご利用者様に衣類を選んでもらったり、ご家族に衣服のお願いをしたりとご利用者様に選択できるよう自己決定を重要視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限りご利用者様と一緒に盛り付けをしたり、配膳、後片付け等関わりを持つようにしている。また、行事の際は出前を頼んだりしている。	献立や食材の調達は専門業者に依頼している。利用者は、盛り付けや食器拭き等できることで関わっている。その日の献立を掲示し、食事中に音楽を流すなど、食事が楽しみになるように支援している。また、月1回、出前をとったり、外食なども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を元にバランスの摂れた食事を提供している。嚥下の状態に合わせて、一口大、刻み、ミキサー等で対応。水分量も把握し脱水にならないようスタッフ間で確認しながら促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、ご自分でのブラッシングの実施、口腔内のチェック後仕上げ介助を実施している。訪問歯科でも定期的に口腔内のチェックをして頂いている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄動作を把握し、時間を見ながら誘導している。できるだけ失敗がないように関わりリハパン、パットの使用もチームで検討している。	職員はユニット会議で、利用者が失禁しない為にどうしたらよいか話し合っている。利用者の様子から声かけしたり、時間で誘導する等している。できるだけトイレに座って排泄することやプライバシーに配慮した排泄支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や排便体操の実施、水分量の確保等支援している。また医療機関にも相談し内服の調整等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望で週2回入浴する方、午前中に入られる方等希望に沿って入浴されている。	週2回入浴を基本にしている。個浴で、希望に沿って午前中に入ったり、歌の好きな利用者には音楽をかける等、一人ひとりに合わせた支援に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様個々の1日のサイクルを把握し、日中に臥床休憩をする時間を作ったり、排泄間隔や入眠のタイミング等を把握し適切な見守り、声掛けを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医や薬剤師等と情報共有し対応している。また、内服薬の用法や副作用等も理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の今までの習慣をなくさないよう、編み物やお散歩、ホームでの生活を楽しくするよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎回希望通りは難しいが、お買い物やお散歩、外食等時間や日程を決めて対応している。	散歩や買い物に出かけたり、テラスで日光浴をすることもある。昨年度は利用者全員で紅葉狩りに出かけて好評だったので、今年度も継続予定である。今後、車いすの利用者をもっと外出できるよう検討していく予定である。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は立替でご利用様に支払いを社会との繋がりを持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯でご自分から家族に電話を掛けたり、ホームに電話がくれば本人に回す対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとの飾りつけをして季節感を感じてもらっている。また、室内の空調、温度、湿度にも気を配っている。照明もできるだけ自然光を取り入れ暗くならないように配慮している。	訪問時はリビングの壁には利用者と職員と一緒に作った秋刀魚などの飾りがあり、季節が感じられた。リビングのテーブルやいすの他、ソファや廊下のベンチなど思い思いに過ごせるスペースもある。リビングはミニ運動会など利用者の楽しみやイベントにも活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や席、座席の位置を工夫し、集団生活の中でご利用様が居心地良く居られるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持ち込んで頂いている。家具の配置は極力ご自宅の環境に近くなるようにご家族に意見を聞いたり、ご家族で配置することもある。	使い慣れた家具を持ち込み、好みのカーテンや装飾など、利用者それぞれが居心地よく過ごせるよう、家族が主となり居室作りをしている。居室の掃除は、職員と一緒に、可能な限り利用者も参加して毎日おこない、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用様が安全に過ごせるように、居室やトイレに表札を付けたり、廊下に障害物を置かないように気をつけている		

【評価機関】